



日本福祉大学 学長

二木立さん

（にきりゅう）

愛知県に学舎を構えて今年で60周年を迎える日本福祉大学。「万人の福祉のために、真実と自愛と献身を」を教育標語に、福祉社会を担う人材の育成に取り組む。今月、学長に就任した二木立さんは大の読書家。「朝7時半に大学に着き、業務が始まる9時まで読書します。家では硬めの本は書齋で、推理小説や時代小説など軟らかめの本は就寝前に読みます。新聞は毎日6紙、雑誌は月に英語誌約30誌、医療や福祉の専門紙誌を含めて日本語の約150紙誌に目を通します」

思考のプロセスを重視する姿勢に共感

私は医学部出身ですが、40年前の医学部は詰め込み教育が今ほどでなく、初めの2年は医学系の科目よりも教養科目が中心でしたので、この時期に様々な本に親しみました。トルストイ、ドストエフスキー、ゲーテ、ヘッセ……。中でも「行動する思想家」として名高い実存主義の哲学者、ジャン・ポール・サルトルに心酔して全集を読みふけり、「方法の問題 弁証法的理性批判序説」にある「理解する、

ンデル著「これからの「正義」の話をはじめいまを生き延びるための哲学」です。「正義」に関する考え方を、幸福の最大化（功利主義）、自由の尊重（リベタリアニズム）、美德の促進（コミュニタリズム）に大別し、それぞれの論拠を、「五人の命を救うために一人の命を犠牲にしているか」「天災後の物不足の中での便乗値上げは是か非か」といった生々しい例をもとに読者に示し、考えさせます。私は、「どん

考える」です。私は臨床医だった70年代にバックナンバーを第1号から専門古書店で購入し、全号を通読していますが、24年版は出色だと思えます。一般的に白書類は政策の擁護が目立ちますが、本書はマイナス面も記しています。特に驚いたのが、小泉内閣時代の社会保障・医療制度改革について、「セーフティネット機能の低下や医療・介護の現場の疲弊などの問題が顕著にみられるようになった」と断定調で書いていることです。これは09年の政権交代の影響でしょう。総じてよくまとめられており、永久保存版

織の空気を少しずつ変えていく根気強さ、情緒に根ざした訴えである」と書かれているのを読んで興味を持ち購入しました。日本型リーダーには「合理」（リアリズムの思考）と「情理」（情の理解）の両方が必要であることがよくわかる本です。

リーダー論を 大学運営に重ねる

学生は分野にとらわれず乱読を 対立意見も読んで自説を深めよ

くとは変わることであり、自己の彼方へ行くことである」という言葉は、今日まで座右の銘の一つとなっています。学生運動に没頭したときには、マルクス、エンゲルス、レーニンの著作なども読みあさりました。また、当時から本には書き込みを励行していました。あとで読むと、琴線に触れた言葉や疑問を持ったことなどが一目でわかります。重要と思う本については読書ノートをつけ、その習慣は50年近く経った今も続いています。

な思想を持つてもいいが、対立意見も十分知ったうえで自説を深めなさい」と学生たちに指導してきたので、結論を押し付けることなく、思考のプロセスを重視する著者の姿勢に共感しました。最終章では「共通善に基づく新たな政治」について触れていて、示唆に富む内容となっています。

厚生労働白書は 社会保障の教科書

学生にも読書を奨励しています。分野にとられず乱読してほしいと思いますが、今読んでほしい本を一冊挙げるなら、マイケル・サ

若い人ばかりでなく、多くの人に社会保障の基礎知識を身につけるために読んでほしいのが、『平成24年版 厚生労働白書 社会保障を

になりうる一冊です。85年から本校の教授を務め、ここ15年近くは管理職の立場にあります。組織運営の本はぜひぶん読み中でも、「心情倫理」と「責任倫理」の峻別と結果責任の重視を説くマックス・ウェバーの「職業としての政治」は心に残っています。学長就任決定後に読んだのは、「結果を出すリーダーはみな非情である」です。厚労省の友人から推薦されたのですが、大学の意思決定では「非情」に徹すると逆効果ではないかという思いが当初はありました。ところが、週刊誌「AERA」の書評に「著者が強調する非情さとは、組

織の空気や世界は変わらぬままに、民主党政権時に内閣府参与を務めた湯浅誠氏の著書です。「原則的な立場」に現実を少しでも近づけるために、言い方ややり方を工夫する必要があり、工夫が足りないゆえに持論が広く理解されなかったことの結果責任の自覚なく、聞き入れない人が悪いと言っただけではさらに相手にされない、といった問題提起はもっともで大学運営に通じる話だと思いました。リーダーの大事な資質は、歴史や失敗に学ぶことだと思います。この点で参考になったのは、「ワイマル共和国ヒトラー」を出現させたものと「日本近代史」です。後者は、太平洋戦争に至る「崩壊」の道程の仔細な分析と、3・11以降の日本との対比が印象的でした。「東北地方の復旧、復興は日本国民の一致した願いである。しかし、それを導くべき政治指導者たちは、ちよと昭和一〇年代初頭のように、四分五裂化して小物化している。国難に直面すれば、必ず「明治維新」が起り、「戦後改革」が起ることというの、具体的な歴史分析を怠った、単なる楽観にすぎない」との筆者の鋭い指摘にうなりました。

LEADING

「ふくし」の総合大学を目指す

日本福祉大学の大学案内やウェブサイトで、ふくし、という表記が各所に見られる。これについて二木さんは語る。「漢字の「福祉」は、生活保護や障害者支援といった狭義の社会福祉、つまり「特定の人のためのもの」というイメージがあります。それも当然含まれますが、さらに広い意味での福祉、端的には「人間らしく幸せに生きるため」のあらゆる活動を包含する言葉として、平仮名を用いています。ビジネス、経済、教育、医療など、様々な領域において活躍できる人材の育成を目指しています」

現在、社会福祉学部、経済学部、健康科学部など6学部と大学院を有する。国家資格や博士号取得に熱心な大学として知られ、卒業生は、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、保育士などとして活躍している。「2015年には、名鉄名古屋駅から約15分の太田川駅前に新キャンパスを開設する予定です。ここに看護学部（設置構想中）を新設すると共に2学部を移します。看護学部は、医学的アプローチとひと味違う、「ふくし」な視野を持った学習環境にしていきたいと考えています」

福祉教育について記した 自著を今月出版

医学部時代に故・川上武氏の『日本

の医者 現代医療構造の分析』を読んで医療問題の研究を始め、これまで20冊以上の医療・福祉関係の本を執筆している二木さん。今月、『福祉教育はいかにあるべきか』を出版した。『私自身の大学教育の実践記録』です。例えば、論理的思考を鍛えるため、ゼミ生には多くのレポート提出を課していました。そのすべてを添削して返し、優秀なものは『公開添削』します。いい論文を読むことで、自分の未熟な点が見えてくるからです。管理職となつてから掲げてきた motto は、「めげない（ぶれない）、媚び



1947年生まれ。72年東京医科歯科大学医学部卒。75年公益法人財団・代々木病院理学診療科開設に参加。同科科長・同院病棟医療部長・同財団理事などを歴任。85年日本福祉大学社会福祉学部教授。92年米国UCLA公衆衛生学大学院客員研究員。99年日本福祉大学大学院社会福祉学研究所長。2003年社会福祉学部長、文部科学省21世紀COEプログラム・日本福祉大学拠点リーダー。09年副学長・常任理事。13年4月から現職。

ない、辞めない」。大学・教授会運営においては「民主的効率化」を信条とする。「効率を重視するあまり、トップダウンに走らないということ。教授陣の自発的な意思を引き出せるように民主的手続きをきちと踏み、かつ迅速に意思決定する。以前から唱えてきたことですが、全学的に取り組んでいきます」と意気込む。学生の変化への柔軟な対応も教員陣に求めている。

「私たちが学生の頃は、難しい本でもむさぼるように読みましたが、今の若い人はいの意味でも悪い意味でも感性的で、読みにくいものは無理して読もうとしません。価値観の押しつけも嫌いです。作家の井上ひさしさんは「ふかいことをおもしろく」を心がけたそうですが、教員も大事なことを、よりわかりやすく、よりおもしろく伝える努力が必要だと思っています」

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、二木立さんが語るリーダー論を紹介しています。http://adv.asahi.com

『日本近代史』（筑摩書房）
坂野潤治・著
1857年から1937年までの80年間の日本を「改革」「革命」「建設」「運用」「再編」「危機」という6つの時代に区分し、通観めざましい近代化を実現しながら、崩壊へと突き進まざるをえなかったのはなぜか。史料を精緻に読み解き提え直す。

『ヒーローを待っていても世界は変わらない』（朝日新聞出版）湯浅誠・著
昨年3月までの約2年間、内閣府参与として政権に入った著者が、「橋下現象」や「決められない政治」「強いリーダーシップ待望論」について検証。議会政治と政党政治をあえて擁護する立場から、格差や貧困、真の民主主義のあり方を探る。

『結果を出すリーダーはみな非情である 30代から鍛える意思決定力』（ダイヤモンド社）富山和彦・著
明治維新も第2次大戦後の復興も、革命の担い手は、企業でいえば課長クラス、ミドルリーダーだ。今の混迷期を脱するには、ミドルリーダーの踏ん張りが欠かせない。自分がトップのつもりで考え行動するリーダーシップの鍛え方を示す。

『平成24年版 厚生労働白書 社会保障を考える』（日経印刷）厚生労働省・編
第1部「社会保障を考える」では、社会保障の目的や機能、日本の社会と社会保障の現状、これからの課題などについて、第2部「現下の政策課題への対応」では、東日本大震災からの復興に関する厚生労働省の取り組みなどについて取載。

『これからの「正義」の話』いまを Justice 生き延びるための哲学
マイケル・サンデル 著 鬼澤忍・訳
ハーバード大学史上空前の履修者数を記録し続ける人気講義をもとにした全米ベストセラー。アリストテレス、カント、ベンサム、ロールズなど古今の哲学者の思想を吟味しながら、現代社会の奥に潜む哲学・倫理の問題と向き合う一冊。